

調査チーム



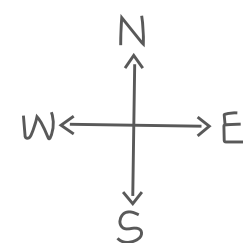
突然ですが、海洋ごみに関する問題です。

私たちの活動する 小豆島の海岸には どのようなごみが 多いのでしょうか？

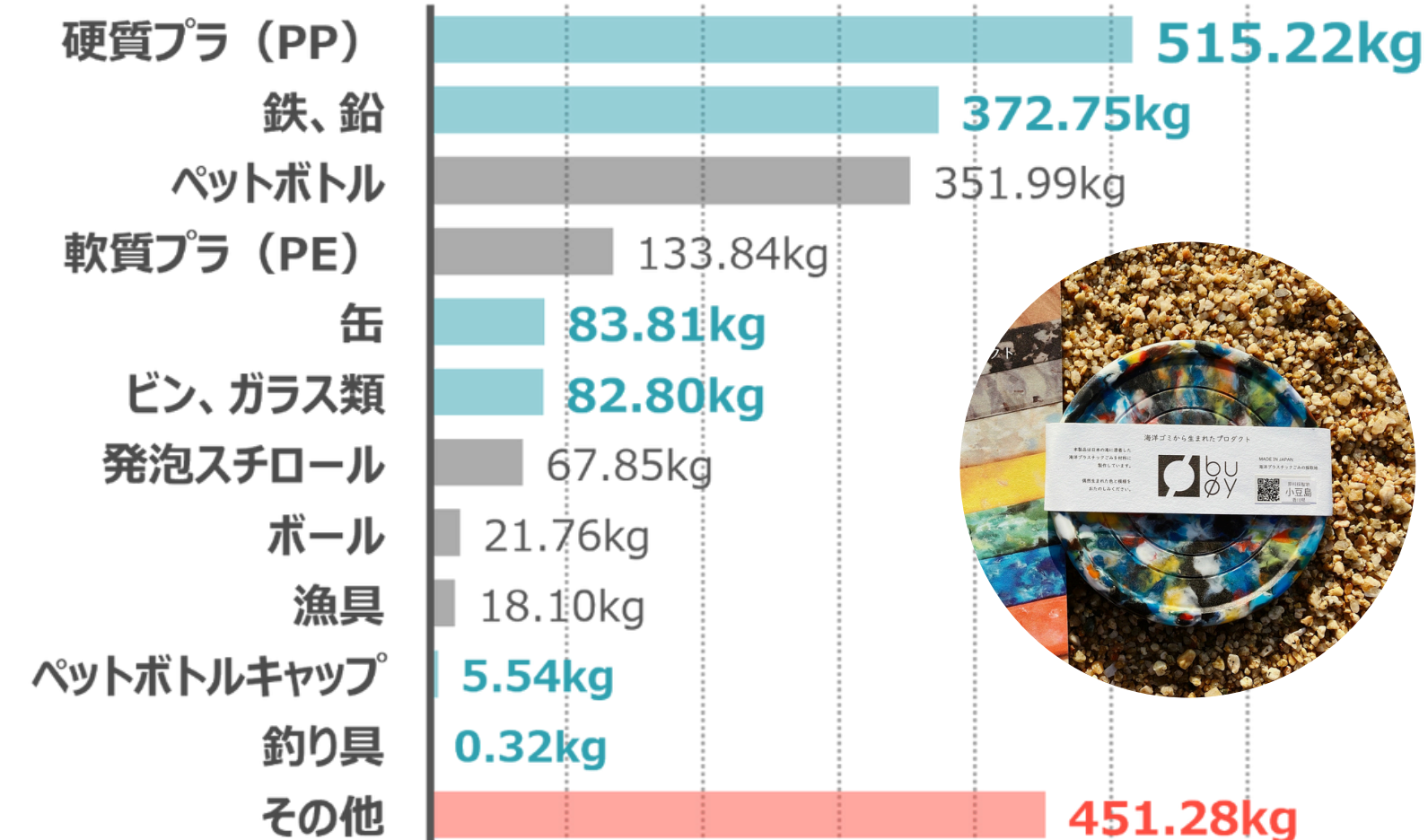


小豆島の海岸に多いごみは？

一番多いものは、硬質プラスチック



合計 2,105.23 kg



0 100 200 300 400 500 600
緑：再資源化可能（全体の50%） 重さ [kg]

調査チームの役割：

「海洋ごみ回収の科学を深める」ことで、ごみの回収に価値を与える。

調査チームとは？

調査チームの目的

「海洋ごみ回収の科学を深める」

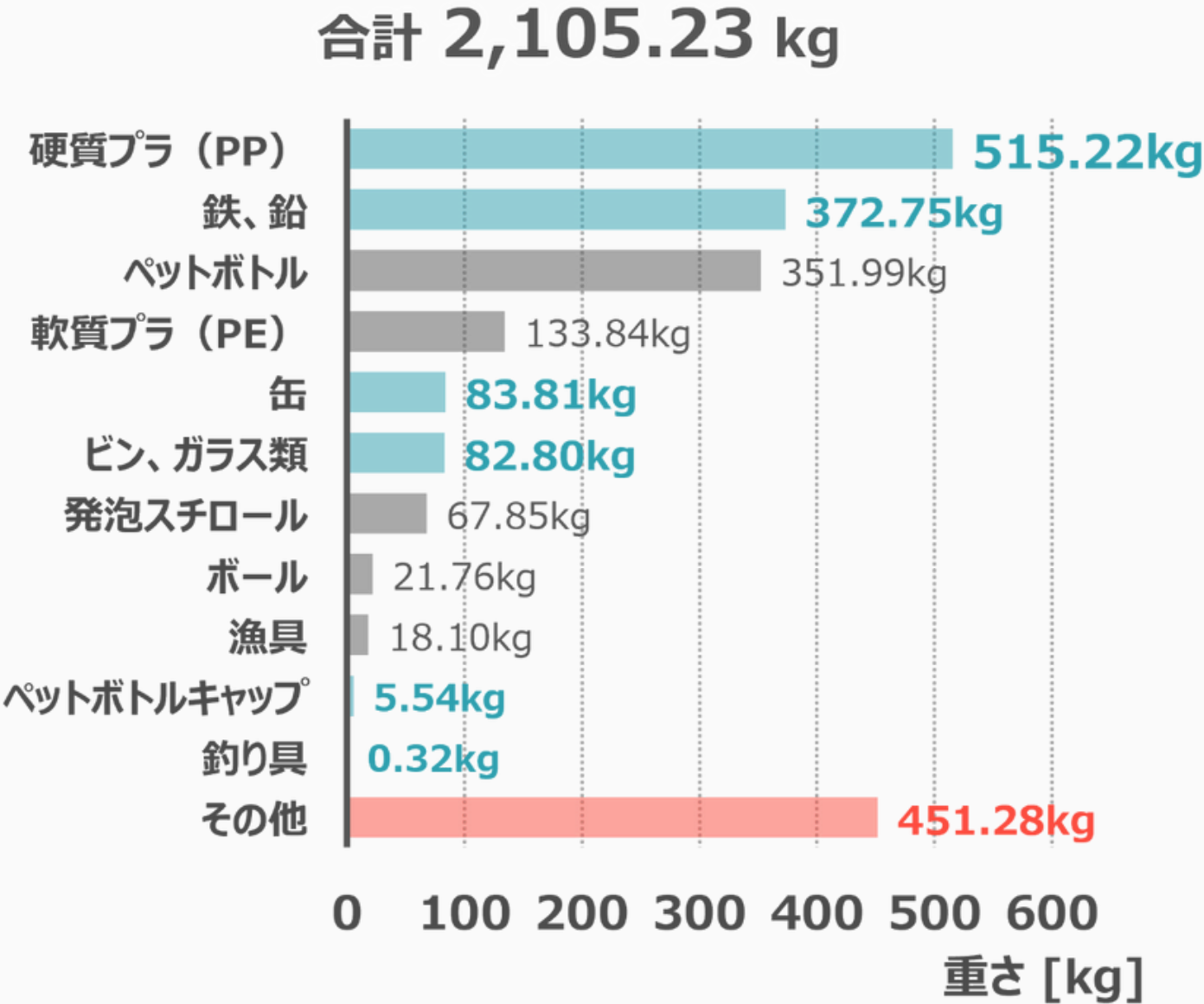
海洋ごみ回収のしくみを科学的に明らかにし、
信頼できるデータで行動と社会の意思決定を支える。



回収量の多いPETの
再資源化をしたい。



回収装置



廃PETのリサイクル
をしたい。



企業

市民やNPOと
共同研究をしたい。



大学

応援したい！
参加したい！



市民

「調査」による海洋ごみ回収の価値の付与

クリーンオーシャンアンサンブルでは、「調査」を通じて海洋ごみの回収に価値を付与しています。単に回収するだけではなく、**持続的な回収システムを構築するための根拠となるデータを集める**ための、**調査スキームの構築、論文等の成果物及び発表**を通して、海洋ごみ回収の意義や価値を高め、**より多くの人々に仲間になっていただくきっかけ**を作っています。

調査スキーム

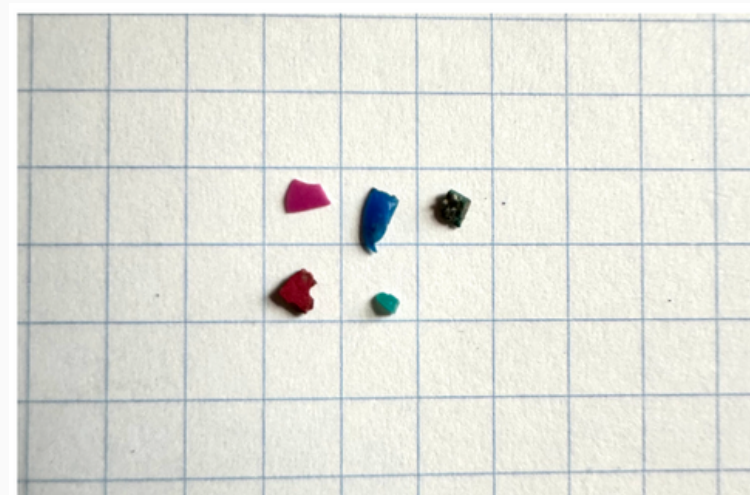
公開されている海洋ごみの情報を集め、まとめています。
また、現場活動を調査するための調査スキームも構築しています。

成果物

海洋ごみの情報をテーマごとにまとめ、調査成果物として論文・コラムも作っています。
また、回収量を増やすための方法も考えています。

公表

調査スキームや成果物は公式HP、プレスリリース、学会発表等を通して、より多くの方々に海洋ごみ問題を深く知るきっかけを作っています。



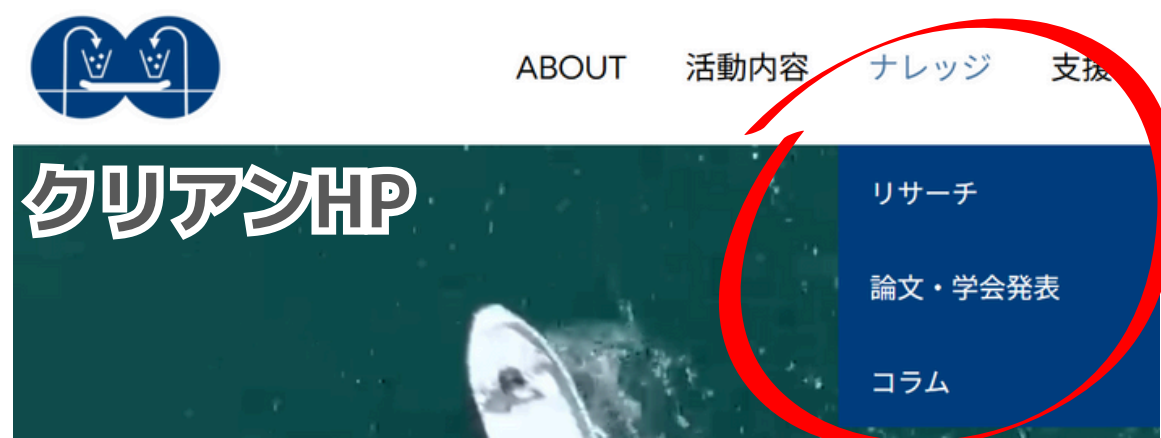
2025/04/10
一次、二次マイクロプラスチックとは？危険性や対策について解説！



調査チームが取り組む三つのテーマ

① 基盤テーマ

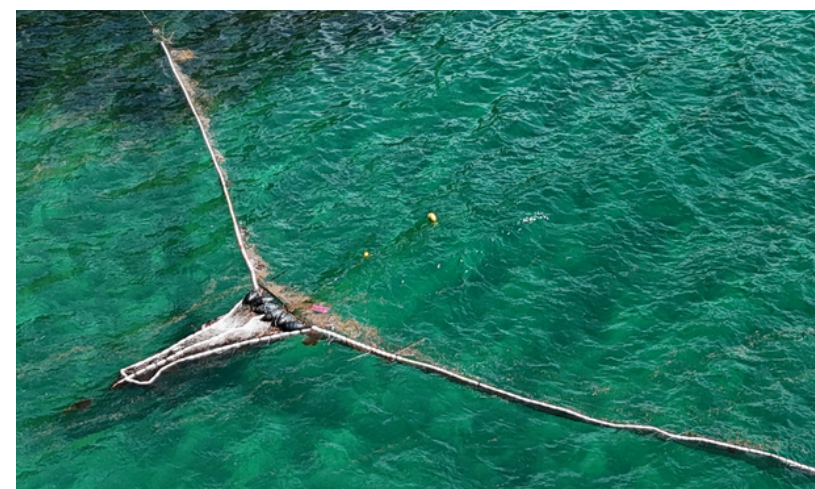
クリーンの海洋ごみの
「ナレッジ」を強化



- ・ 論文作成（&文献調査）
- ・ 海洋ごみのコラム作成
- ・ 学会発表
- ・ 海洋ごみ回収、再資源化実績のデータ整理及び考察

② 開発テーマ

海洋ごみ「回収量を向上」
する方法の提案



- ・ 回収装置のごみ回収量と関連するパラメータの探索
- ・ ビーチクリーンのごみ回収効率に寄与する因子の分析
- ・ 海洋ごみMAPの活用方法提案

③ 市民科学

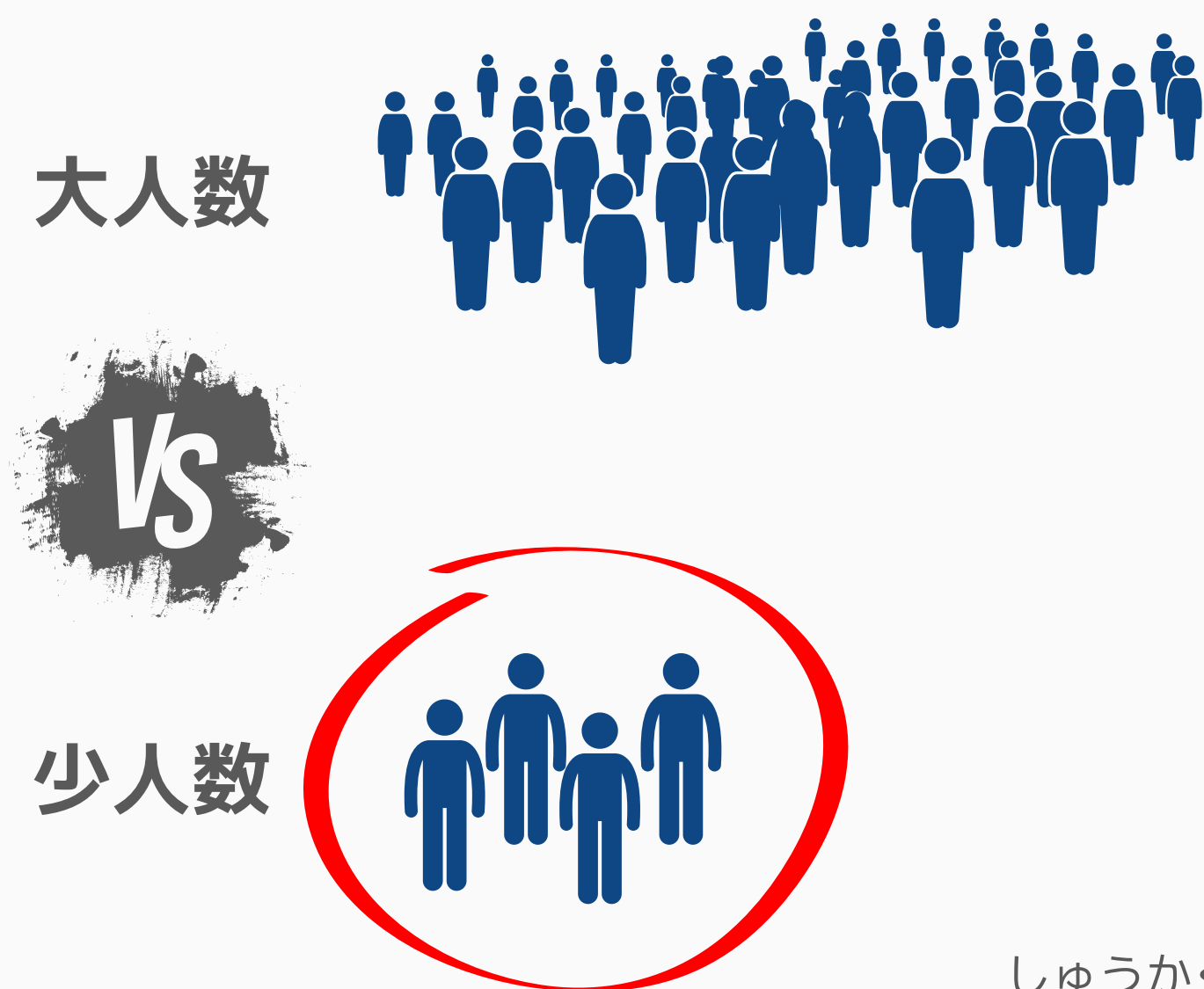
海洋ごみの科学を
市民とともに広げる



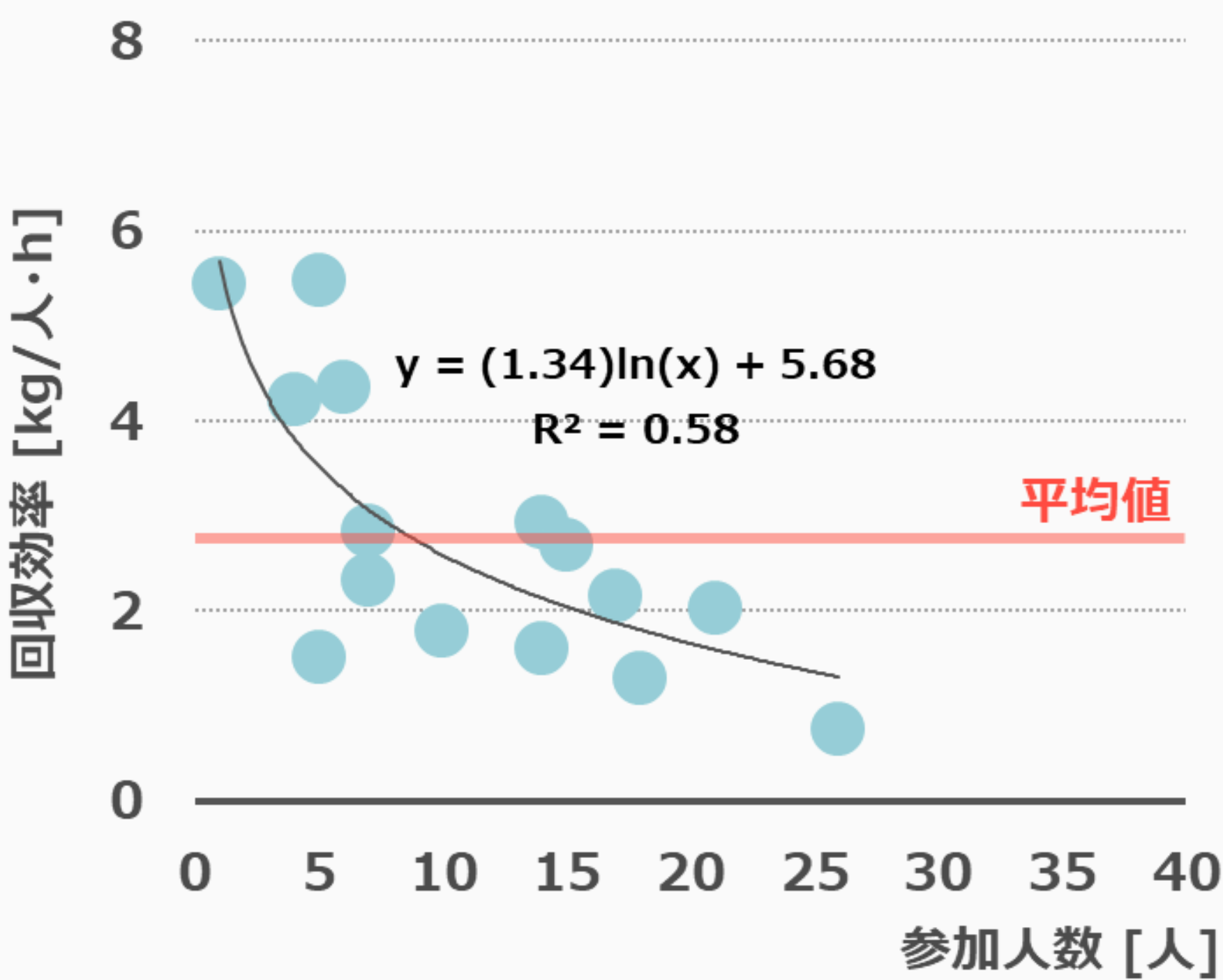
- ・ 論文、コラムのSNSやプレスリリースによる発信
- ・ 海洋ごみ調査マニュアルの作成及び公開
- ・ 市民参加型マイクロプラスチック調査方法の開発と実践

調査事例の紹介① 開発テーマ：ビーチクリーンのごみ回収効率

多尾海岸における
ビーチクリーンのごみの回収効率
はどちらが高いでしょう？



2024年の結果 (2024年1月～12月に実施したビーチクリーン)



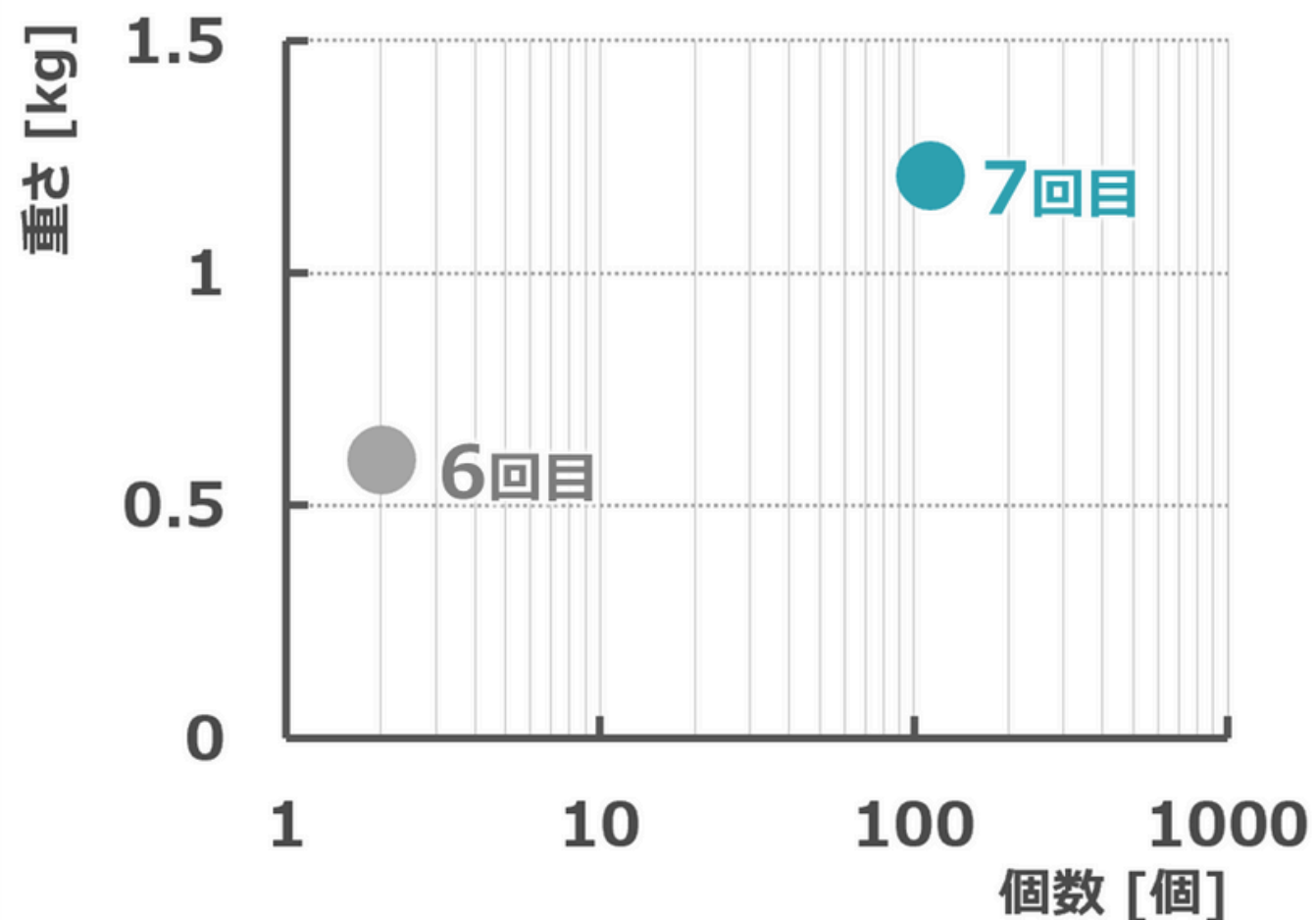
しゅうかくていげん
ビーチクリーンでは「収穫逡減」が発生するため、最適な人数がある。

調査事例の紹介② 開発テーマ：海洋ごみ回収量との相関



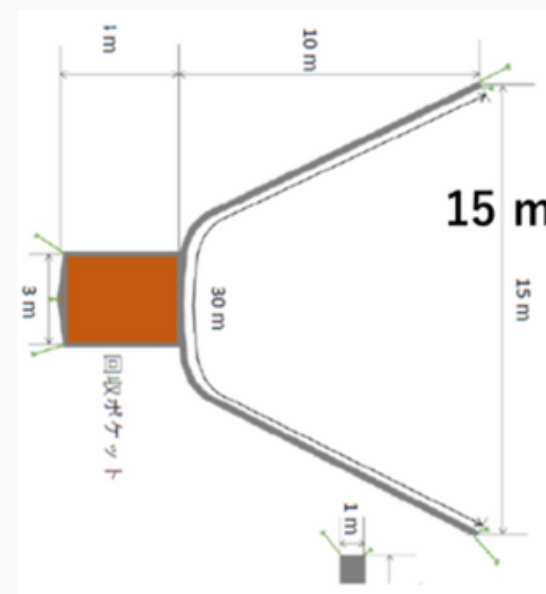
6回目試験：2月20日～3月10日（冬～春）

7回目試験：5月19日～6月8日（春～夏）

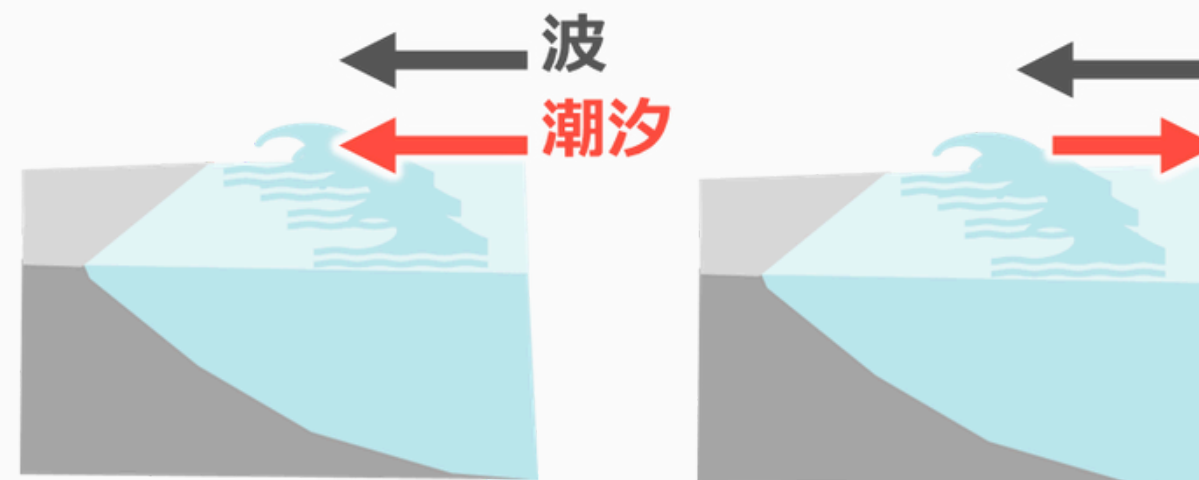


なぜ、7回目試験は回収量が増えた??

仮説1：装置に入る海水の量が増えた。

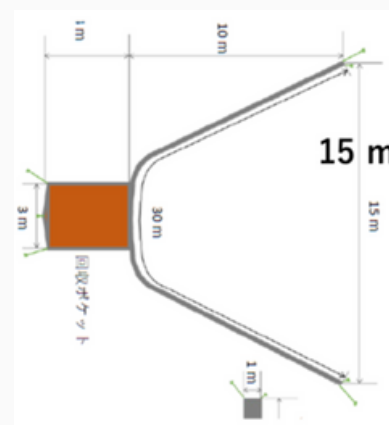


仮説2：潮汐の影響。



調査事例の紹介② 開発テーマ：海洋ごみ回収量との相関

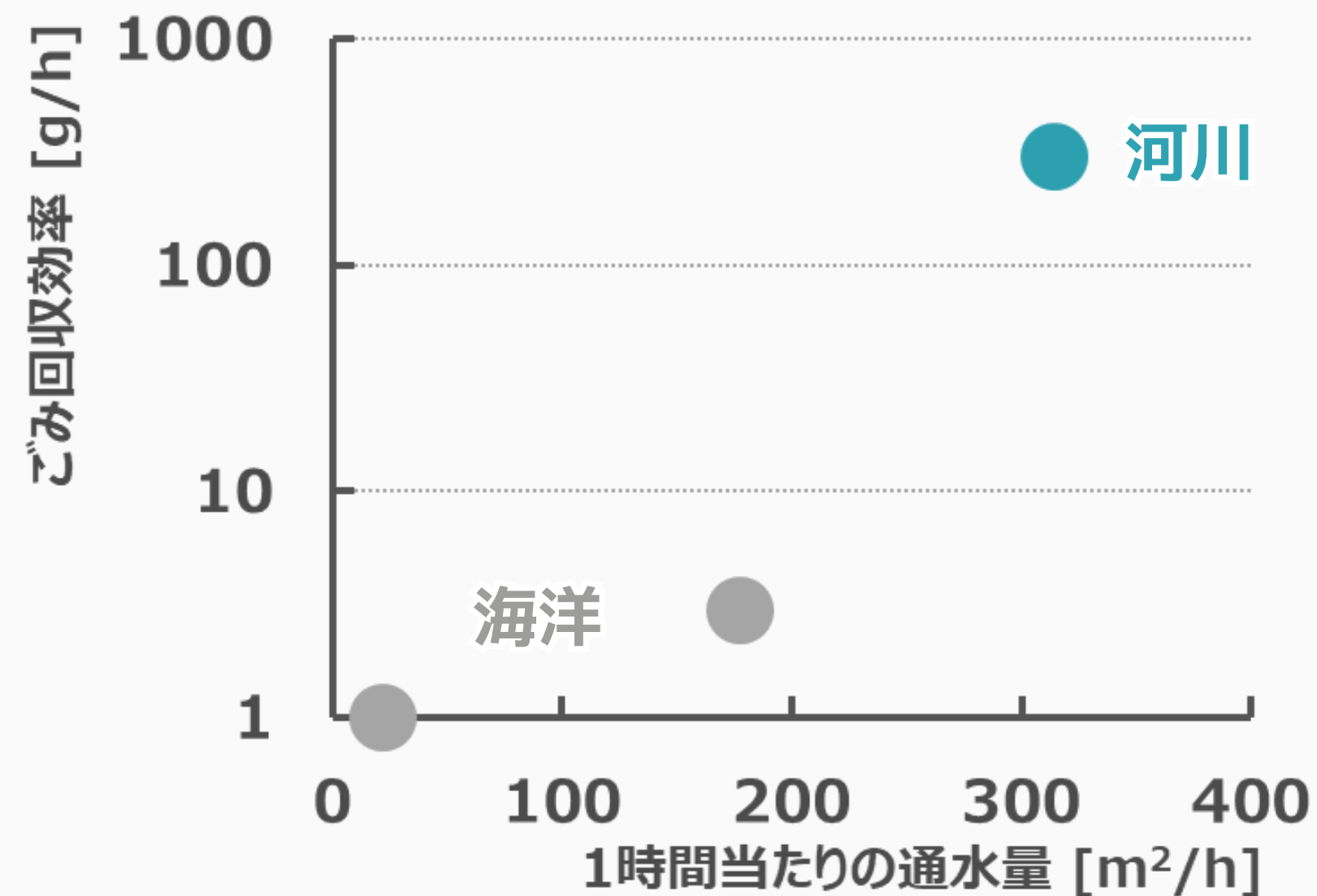
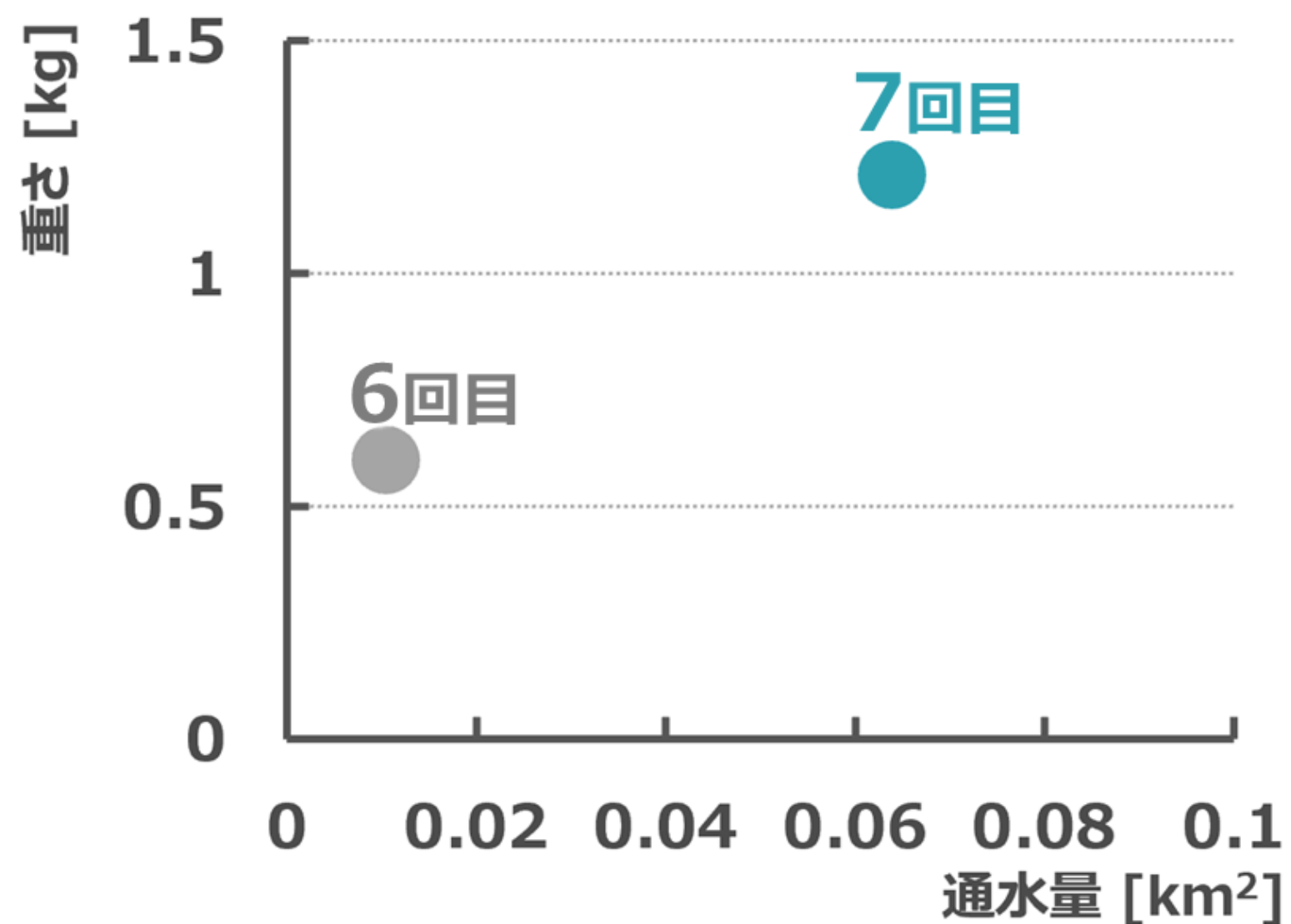
仮説1：通水量



海水



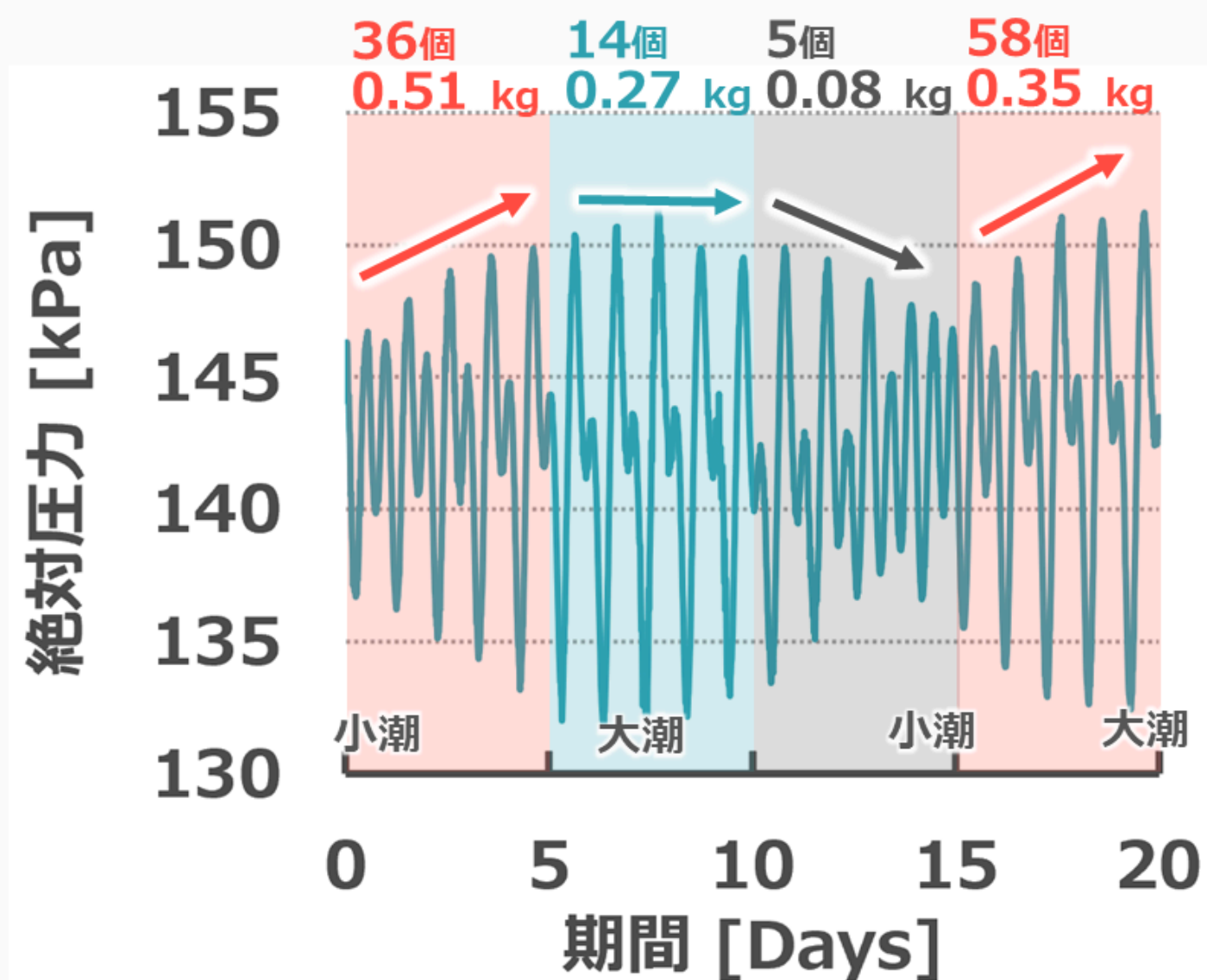
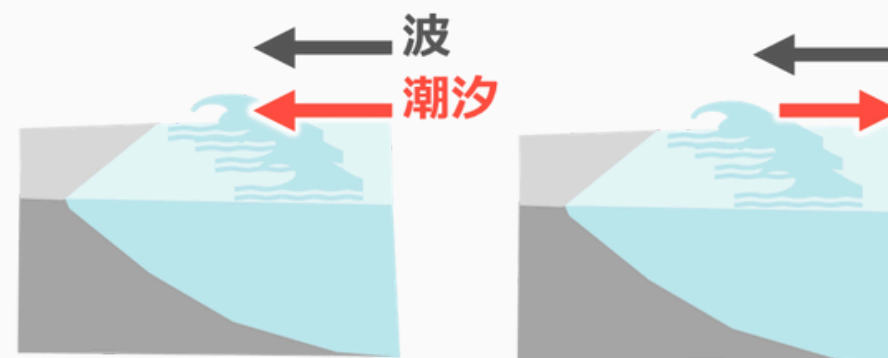
河川ごみ回収装置
「通水量」が多い??



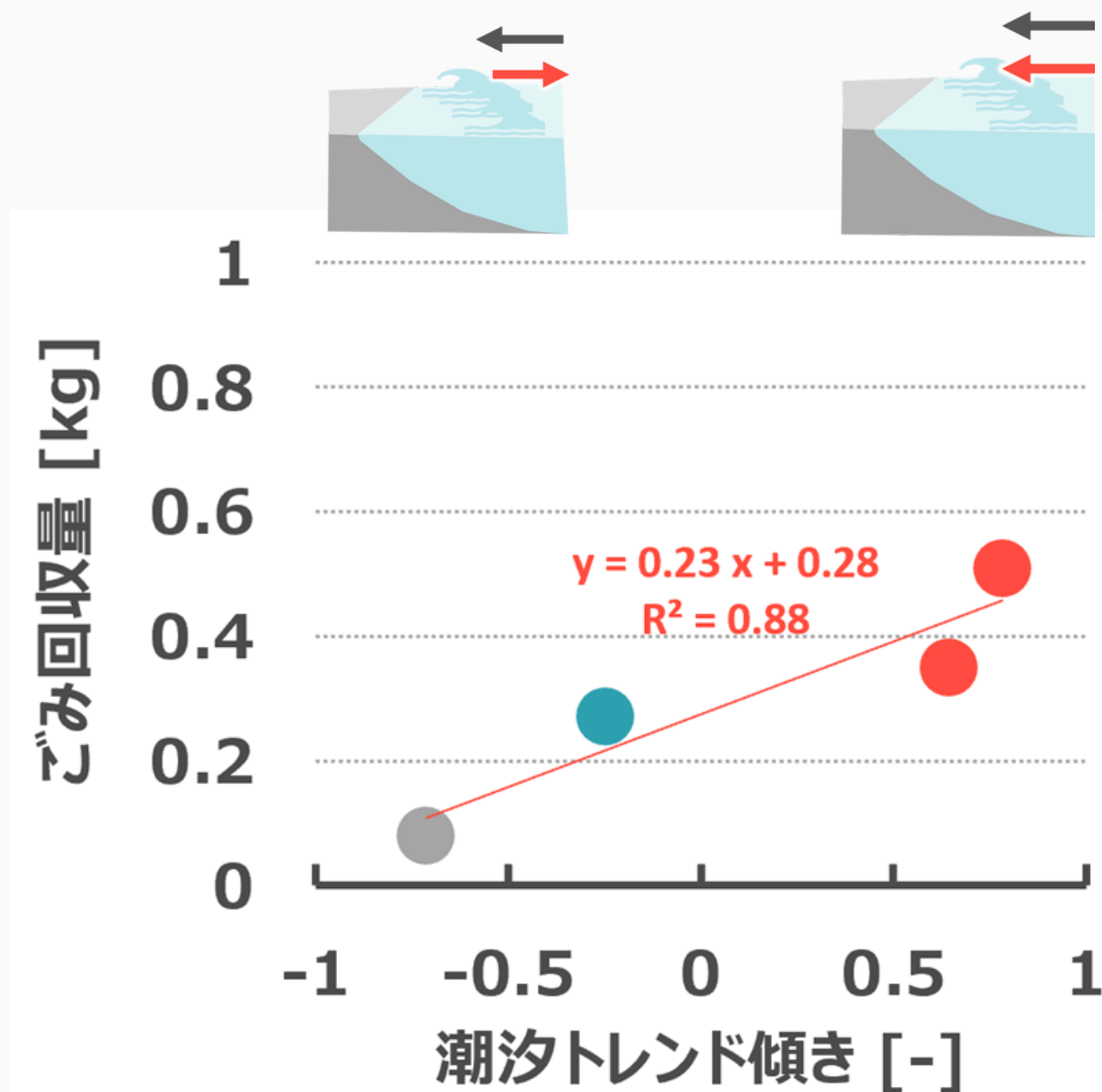
河川：単位時間当たりの通水量が大きく、回収効率も高い。

調査事例の紹介② 開発テーマ：海洋ごみ回収量との相関

仮説2：潮汐の影響

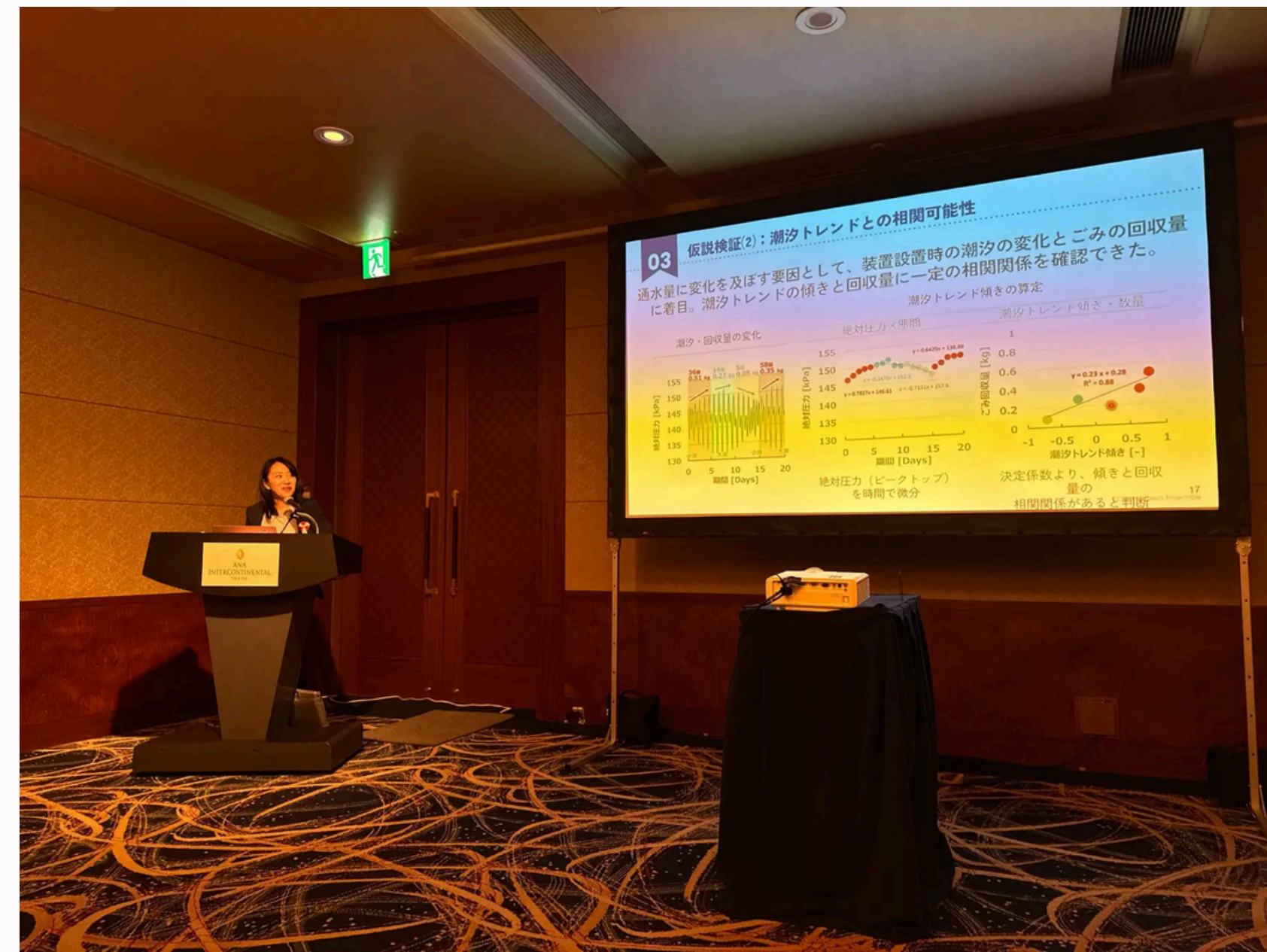


ピークトップ
の傾きを横軸に



小潮→大潮の期間に、ごみの回収量が増加。

実績：2024年度「笹川科学研究奨励賞」の受賞



海洋ごみ問題の解決に向けた科学的・実践的なアプローチが評価された。
なお、昨年度に引き続き、2025年度も笹川研究助成金に採択された。

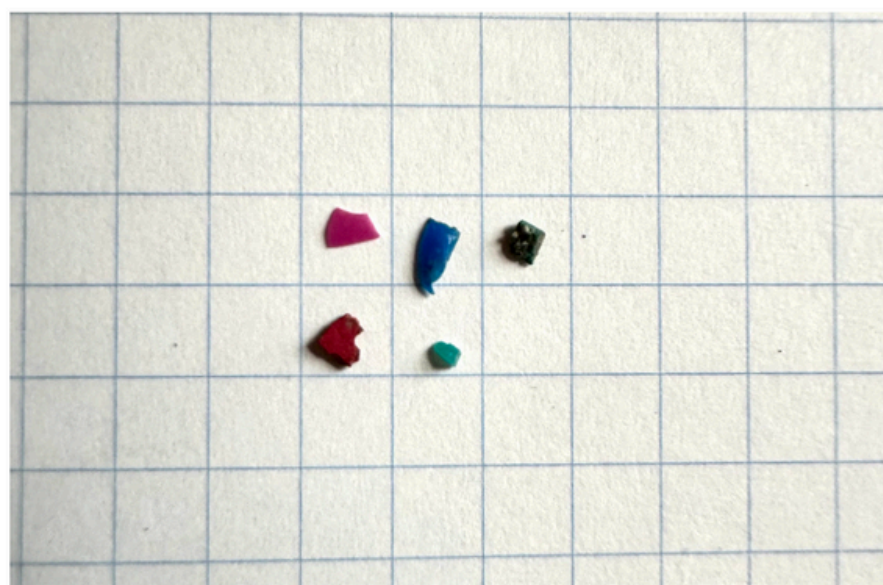
調査事例の紹介③ 基盤テーマ：海洋ごみのコラム

現在4件の科学コラム（日本語、英語）を公開中。

一次情報である「論文」を参考に作成。



2025/03/13
小さなプラスチックの粒「プラスチックペレット」



2025/04/10
一次、二次マイクロプラスチックとは？危険性や対策について解説！



2025/04/18
プラスチックの種類とリサイクルについて解説！



2025/05/27
河川ごみ回収の最前線 — 私たちが開発した装置とその可能性について

マイクロプラスチック
って何？



マイクロプラスチック
はどうやってできる？



プラスチックの
リサイクルって何？



河川ごみ回収装置に
ついて知りたい！



調査チームのまとめと今後の予定

調査チームの目的

「海洋ごみ回収の科学を深める」ことで、ごみの回収に価値を与える。

調査チームの活動

基盤テーマ：クリアンの海洋ごみの「ナレッジ」を強化 例：論文・コラムの作成

開発テーマ：海洋ごみ「回収量を向上」する方法の提案 例：回収装置の回収量に与える因子の分析

市民科学：海洋ごみの科学を市民とともに広げる 例：SNS、プレスリリースによる発信

今後の予定

- ・ コラム投稿：2件（9月、12月）
- ・ 学会発表：2件@瀬戸内海研究フォーラム（9/8-9）
 - 1) 河川ごみ回収システム確立と全国展開に向けて：香川から海洋ごみゼロを目指す挑戦
 - 2) 効率的なごみ回収方法の探索：小豆島の市民参加型ビーチクリーン
- ・ 論文投稿：3件